CERBERUS

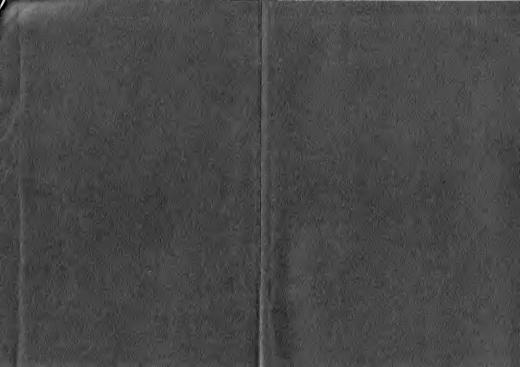


OFFT OPIA ENXAME

[gantz_waitingroom & mangascreenerl scan & editing by morten translation by Summer Soldier (ch1-7) & Hox (ch8-end) cleaning by Revilenigma special thanks for former work to Gatsu (Band of Hawks)















この世の終り

(HAPTER 9 – UNDESIRABLE RETURN, UNWELCOME SURVIVAL 173

(HAPTER 10 – THE END OF THE WORLD 193 EPILOGUE – THE END

THAT DOESN'T END 204



PROLOGUE — THE BEGINNING THAT DOESN'T BEGIN 5

(HAPTER I — BOXER MARV II

(HAPTER 2 — THE RISE AND FALL OF THE PIRATE SHIP 27

(HAPTER 3 — VILLAGE OF THE MAN-EATING INSECTS 43

(HAPTER 4 — WHY WE STOPPED EATING HUMAN FLESH 35

(HAPTER 5 – PARADISE LOST 97

(HAPTER 6 – THE BLIND ARAB 115

(HAPTER 7 – THE (AMEL HOTEL 135)

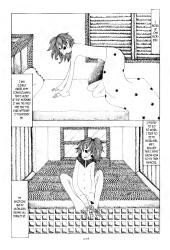
(HAPTER 8 – THE GATEKEEPERS 149)

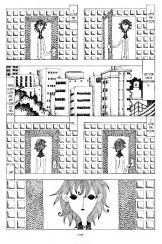


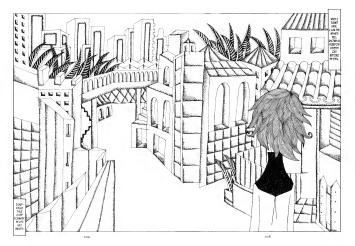


Prologue The

I HE
BEGINNING
THAT
DOESN'T
BEGIN





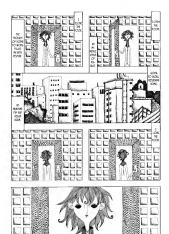


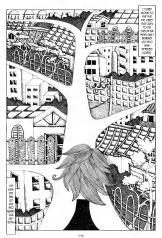




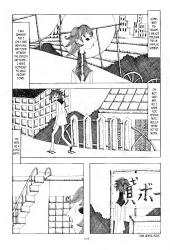
CHAPTER 1 Boxer-Maru











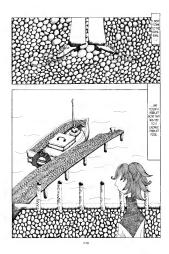


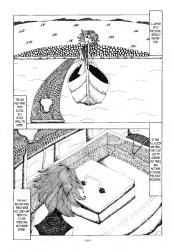




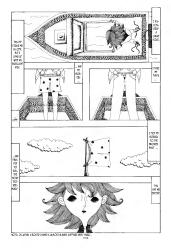






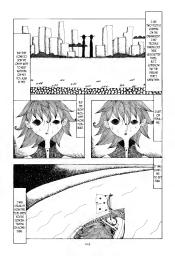














HIGHER HE LIFE TO STEND THE LIFE TO STEND THE LIFE HEEL TO THE FUILLS TO TETAL THE GOAT PORNARY



TIE HOON HAS SERVED VEST HOORT-LT.



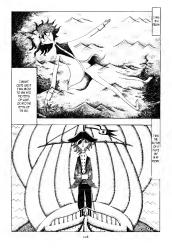




CHAPTER 2

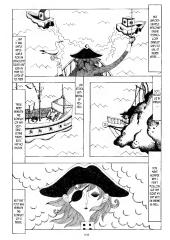
THE RISE AND FALL OF THE

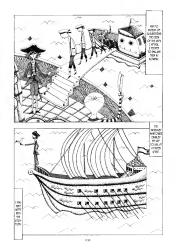
PIRATE SHIP

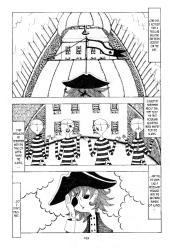


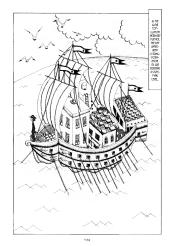


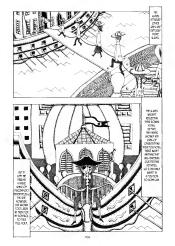


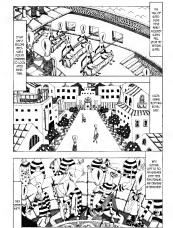




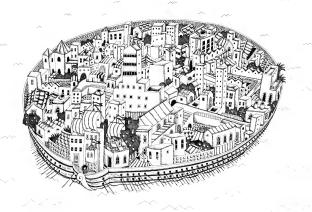


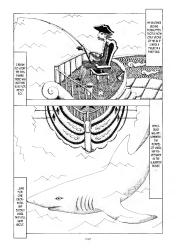












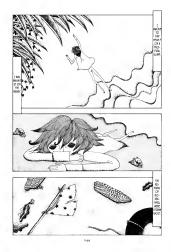


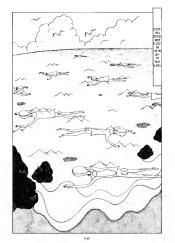




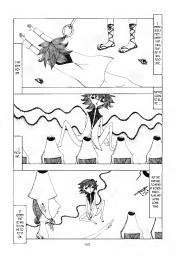
CHAPTER 3 . VILLAGE OF THE MAN-EATING INSECTS





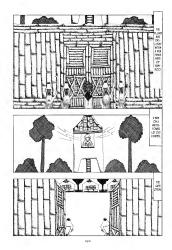




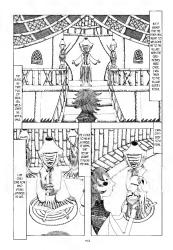




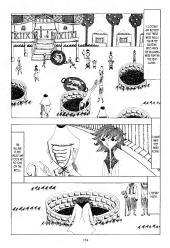




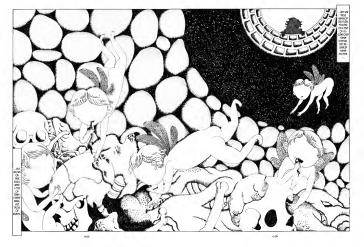


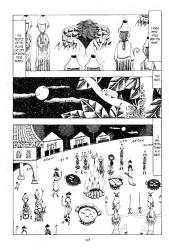


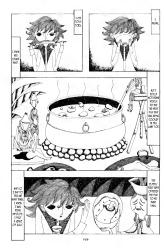


















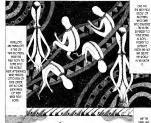
FOSTBUT



In Process of the Process of the Process of the Process of Contract Floor of the Process of Contract Floor of the Process of Contract Floor of the Process o

THESE DIFFTES
FESTEP MERELY
AS ASSTRUCTIONS,
PLOTTING AROUTH
IN THE NOTHINGESS
AND NETTEE
THE SAIN DE
THE FOON NOT
YET PURENAFF

TSELF FECH THE RESS. THE STORM INPUT LIKE THIS IN PROCESS THE STORM IN THE ST



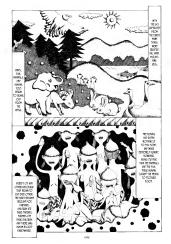
... ANY TIEN
THE SLIE WAS BOOK!
FROM FEMBLE!
HAMBLOTE'S FRET.
LEPHTHO ITS REP
LIGHT LIFON THE EACH.
SO THE SLIE AND AT
HAMBLOTE'S FRET.
THE HOOM WAS BOOK!
FROM THESE.

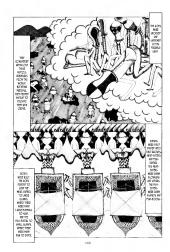
FROM TIESE:
LIBRIT LIFON THE EARTH,
THE ISLAMPES THIS
SETEM TO THE MAR
SETEM TO THE MAR
SETEM TO THE MAR
SETEM THE MOON
SETEM THE MOON
SETEM THE THE MOON
SETEM THE THE MOON
SETEM TO SETEM
CONTINUE TO SETEM
THE SETEM THE SETEM
THE SETEM THE THE MOON
SETEM THE THE MOON
SETEM THE THE MOON
SETEM THE THE MOON
SETEM THE MOON

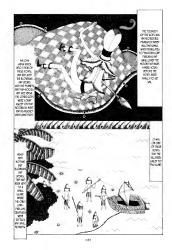
FOVERFUL ADES

Table of the second of the sec

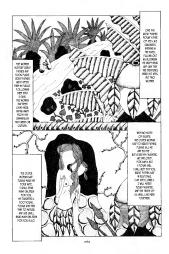
064

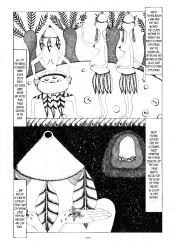


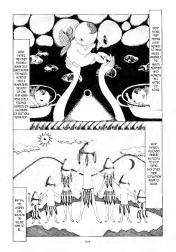
















NOX FF T SUNT TO LINCO NO RESPON

FEORLE WILLIAM SEMET SO REFERLE

FECULSE OF WE NOT FEDER SO THIS INSECT

and Title A TACKET OWNERS TO ME MON NO THEIR MEDINT ENGURA PERFES IN THIS MILLAGE TO FEET THEM ON EFFELLAR \$495

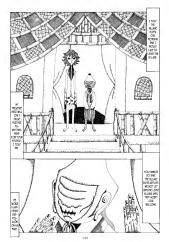
I CONSPERD MAIN

OUR MAN'S GENTLE

1100 HE VILACE ELSEE MSSCTS BETH I PE KON E



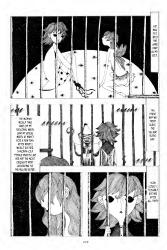


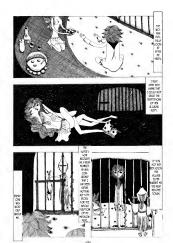








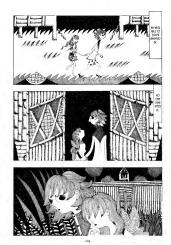








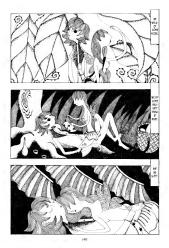
















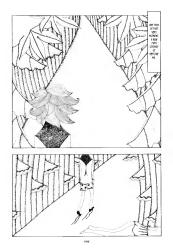








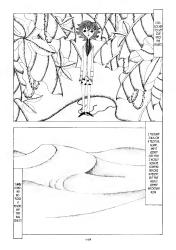






CHAPTER 6 - THE BLIND ARAB

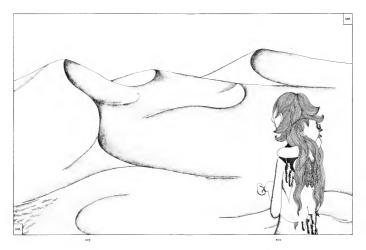


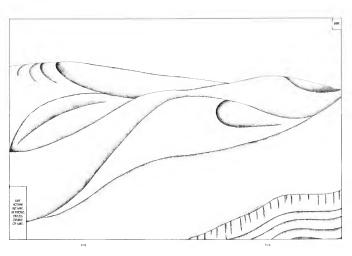


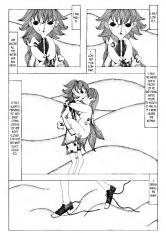


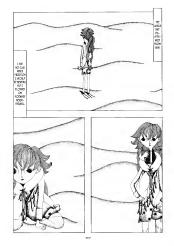






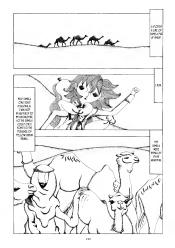


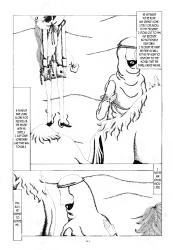




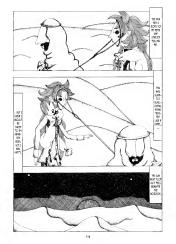






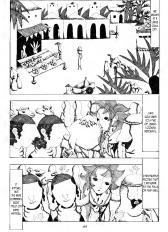








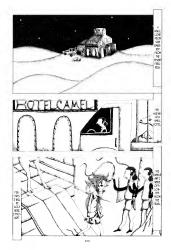




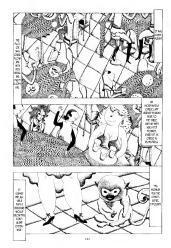




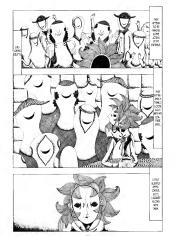








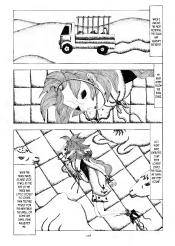


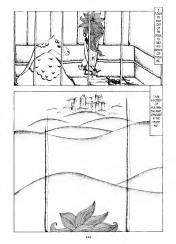


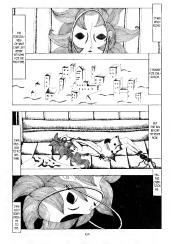


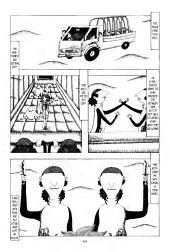


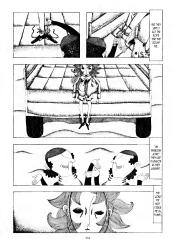


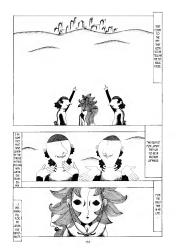






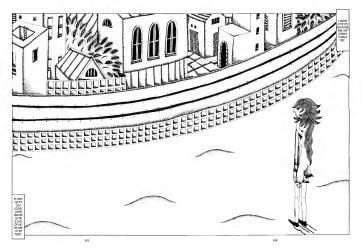


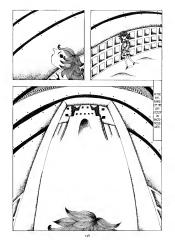


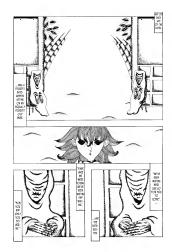


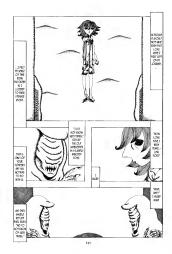


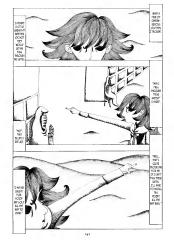


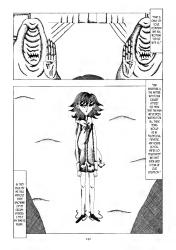


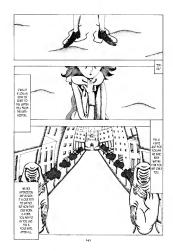


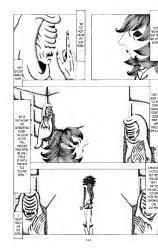


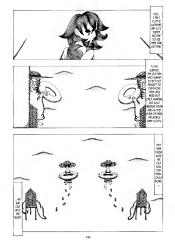


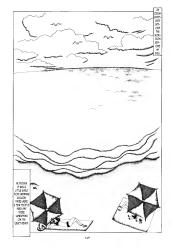


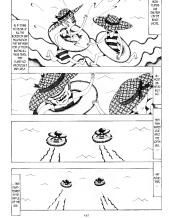




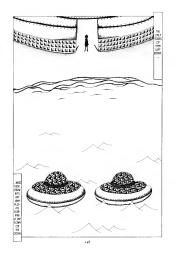






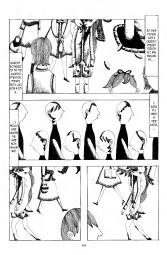


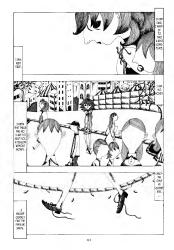
THE CUP MET WEEK

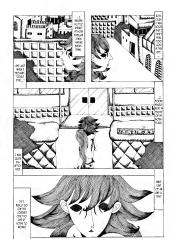


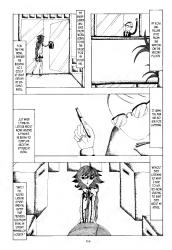
* Undesirable Return, UNWELCOME SURVIVAL

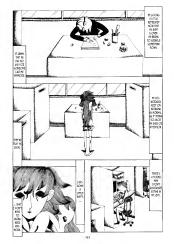


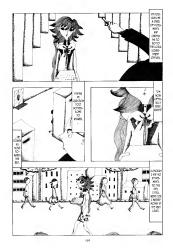


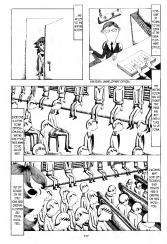


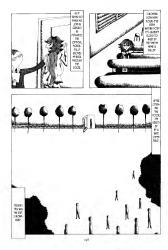


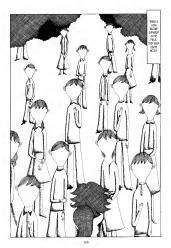


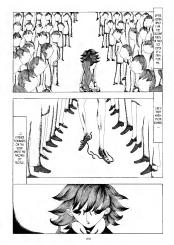


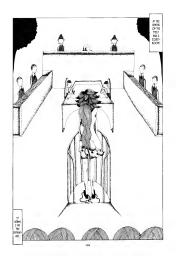


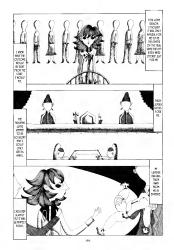


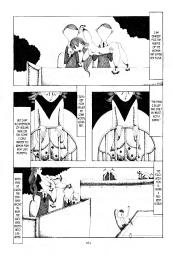


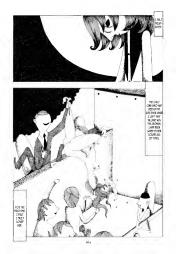






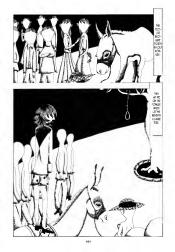








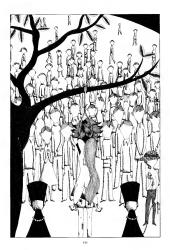


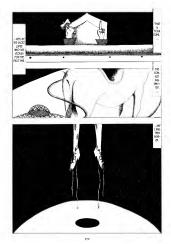






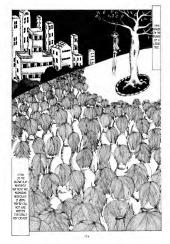




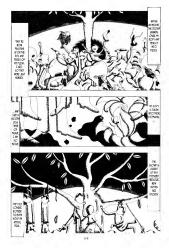


CHAPTER 10. THE END OF THE WORLD

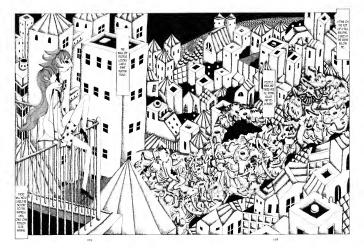


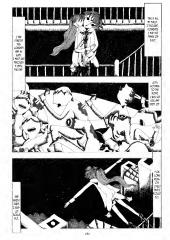


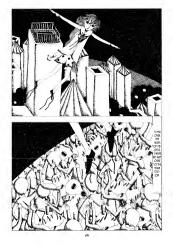


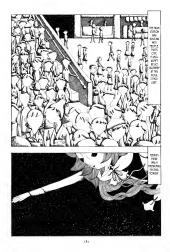


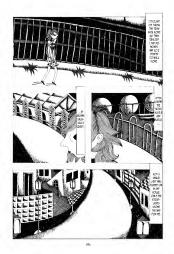




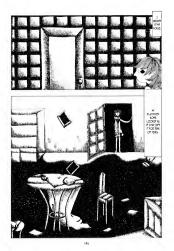


























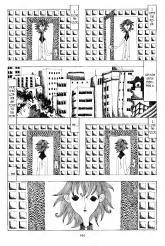


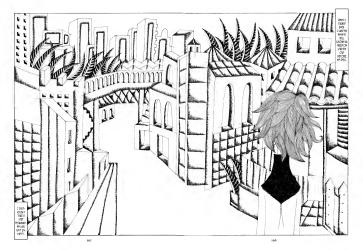
EPILOGUE THE END

THAT

Doesn't End



















この世の終りへの旅」に終りはあるのか?

中条省平 #智蔵大学教授(フランス文学)

できるからすごいのである はない。いくら同じモチーフを繰りかえしても、そこに汲めども尽きぬ創作の泉を発見することが すぐれた芸術家は同じモチーフを繰りかえす。同じモチーフを繰りかえずからすぐれているので

西国兄妹もそうしたすぐれた芸術家だ。

変わっているという重い異和感におそわれる。 たとえば、初長篇『この後の終りへの旅』の賢道。主人公は、ある朝、目を覚まして、なにかが

りかたをしている(『恩録』収録)。「恩録」には、主人公が目を覚ますところは描かれていないが、 収録)。また、西国兄妹のもっとも完成度の高い作品のひとつである「地獄」も、同じような始ま もの」にすでに語られているし、「殺人鬼Pの呪い」でも繰りかえされている(ともに『ぼく虫) この、朝の目覚めとそれにつづく異和感というモチーフは、西国兄妹のデビュー作「僕が殺した

から、この物語がやはり朝の目覚めから始まっていたことがわかる仕掛けなのである。 彼が白室から階下の食堂に降りてゆき、家族のみんなに「おはようございます」と挨拶をしている

そらく西国兄妹もカフカが大好きなのだろう。「この世の終りへの旅」にも、『審拝』や「掟の門 ある朝、目覚めると、一匹の巨大な毒虫になっていたのは、カフカの『変身』の主人公だが、お

えがたい傲慢さやお気楽さにたいする根本的な異議中し立てなのである。そして、世界文学のなか きない。それは、自分というものを水久不変の存在と考えて疑わない人間の意識と、その意識の耐 だが、西国兄妹の主人公たちが朝起きて感じる異和感は、けっしてカフカの影響などには還元で

ぐりこんで、「はくの世界の全てを閉ざし」、ついに安楽を得るのだが、エピローグでは、ふたただ そのほどけた靴をはいて、旅に出なければならなくなる もっとも、ラスト近くで家にたどり着いた一ほく」は、その靴をぬいで裸足になり、女の革袋にも 自分というもののもろさに気づいた「ほく」の意識の異和感を表現するメタファーなのだろう 靴の紐の結びかたが分からなくなってしまう。物語の最初から最後までほどけたままの靴の紐は で初めてそのことを明確にしめしたのが、カフカという男だった。 「変身」のグレゴール・ザムザは虫になってしまったが、「この世の終りへの絃」の「ほく」は

命づけられる。思えば、西国兄妹のマンガの主人公は、みんなそうした放浪者だった。 度、自分の異物性に気づいた人間には、安定した暮らしは許されず、たえず放譲することが運

世の終りへの旅』のいくつものエピソードのなかで、この街賊船の話を、私はいちばん好ましく荒 『この世の終りへの旅』の「ほく」も例外ではなく、そうして、今回は海賊船の船長になる。『この 西国兄妹の様く主人公たちは、故説者だから、よく家を出る。よく海辺に行く。よく船に乗る

する良の物語からあとは、カニハリズムが重要な主題になるからだ。 う。お伽話の智険のように無責任で、どこかユーモラスだからである たが、この明るいメルヘンのような両子は長つづきしない。海賊船が沈没して、「ぼく」が患者

ところを「はく」は目覚する。 違えられて食べられそうになったあげく、人間全体がたがいに殺しあい、たがいを育り喰っている の女を殺し、その肉を干し肉にして食べてしまうのである。さらには、「ほく」自身がラクダと町 また、この虫がじつは本物の人間ではないかという疑いを抱きながら、自分の愛する人間そっくり この鶏に住む部族が、人間そっくりの虫を食糧にしているというだけの話ではない。「ぼく」も

おそらく、西国兄妹の目には、たがいに果てしなく殺しあっている人間は、自分で自分を食り喰

う怪物のように見えるのだろう。

の時を回復するのである なるのだ。そうして、人間が生まれてくる瞬間にかならず失ってしまう母と胎児の同化という歪 そのなかにもぐりこむ。つまり、今度は「ぼく」のほうが女に食べられて、女の腹に収まることに のそのもうひとつの側面のあらわれなのだろう。「ほく」は最後には、女の革徒の服をもう一度収き 女を殺し、その肉を食べ、殺した女の革装を肌身はなさず持ち歩くようになるのは、カニバリズム の対象と同化したいというもうひとつの側面がある。『この世の終りへの旅』の「ぼく」が、要する だが、フロイトがいったように、カニバリズムには、破壊的情悪とはまったく点に、愛情や良敬

だが、それはたんなるグロテスクな楽曲緒好や報音趣味ではない。むしろ、そうしたモチーフには、 人間のお腹を裂くと、そこにもうひとりの人間がいるという薄気味思いモチーフがあらわれていた。 そういえば、さきほど何にだしたデビュー作「僕が殺したもの」と、「殺人鬼Pの呪い」にも

しの好奇心が感じられる。別の作品「誕生日」(『ほく虫』収録)には、子供が母親を懐胎すると 自分が討説のお腹を割って生まれてきたという神緒にたいして幼児がよせるような、純粋でむきだ いう物語が描かれていることもつけ加えておこう。

母と一体化するというモチーフの変形であるように思われる。 世の終りへの旅』の「ぼく」が女の革装に入りこむ話によく似ているだけでなく、子供が母の胎内で 録)では、主人公が死んだ女といっしょに指摘におさまるのだが、このエピソードなども、「この また、「この我の終りへの旅」の順型ともいうべき傑作短篇「恋しい恋の話し」(『心の悲しみ』収

ふたたび紐のほどけた靴をはいて、「この世の終りへの旅」のなかで、「終らない終り」を探し求めて 放浪しなければならないのである。 しかし、母の胎内への回帰はひと時の夢にすぎない。先にも述べたように、西国兄妹の主人公は







初 出 本書は「アックス」(毎年工業書刊) rol 25(2002年2月28日) ~vol 35(2003年3月1日) 掲載分に 加集・修正・指き下ろし(前ちない再りの乗)を加え再構成したものです。

この世の終りへの旅

2003年12月20日 初版第1開発行 2008年10月20日 第3開発行 ※ # ■ 週間兄妹

25人 = 子塚能理子 88人 = 高市真紀

発信所 - 株式会社 吉林工務会 〒162-0656 東京都報報刊刊刊3-15例日间ビル38 76-03-3532-0671 南景郎 - 03-5563-9920 編集館 Fax-03-5683-9919 (基準)

報 報 ■ ミルキャ・イソベ レイアウト ■ 安的語音

定価はカバーに表示してあります。 乱工 係工はお取り終え致します。

CNISHIOKA BROSIS 2003 Printed in jupos ISBN 978 4-38379 145-3